

かみかすや・いしくらなかいせき

上粕屋・石倉中遺跡

(伊勢原市 No.40 遺跡)

調査期間 20110916～20120229

所在地 伊勢原市上粕屋

時代

旧石器
縄文
奈良・平安
中世
近世



作成日:20111201 更新:20120426

概要

調査地点は石倉橋交差点に近接しています。この付近は青山道と田村道などと呼ばれ、各方面に延びる近世大山道が交差する交通の要衝であった場所です。県道沿いには大山の道標がありましたが、現在は近隣に移設されています。調査の成果 昨年度と本年度の調査により、縄文時代・古代・中世～近世などの遺跡の広がりを捉えることができました。

近世以降(江戸時代以降):現在の県道に沿った場所では、礎石(そせき)の柱を持つ建物跡と竪穴状(たてあなじょう)遺構(いこう)などが発見されています。隣接して溝や土坑などのほか、井戸や地下式坑(ちかしきこう)とよばれる貯蔵施設が認められます。便所跡からは便槽(べんそう)に使用されていた甕の中から美しい文様が描かれた染付(そめつけ)便器(べんき)が出土しています。

これら遺構群は屋敷地の各施設と考えられるもので、土地利用の様子が具体的に判る良好な事例です。

調査区の中央部では、幅4～5mの断面形が逆台形の大規模な道状遺構が発見されています。出土遺物は18世紀代を主体とする陶磁器類(とうじきるい)が認められることから、近世大山道に関係する道であると考えられます。

中世:道状遺構は、固く締まった帯状の硬化面が大山の方向へ延びていること、片側には側溝を有すること、その側溝



▲ 遺跡航空写真(上空から)



▲ 建物跡調査状況

には水流があり砂粒や礫が流れていること、中世の渡来(とらい)銭(せん)が出土していることなどの特徴があります。
古代(奈良・平安時代):円形土坑が複数発見されていることから土地利用の主体は畑地であったと考えられます。2区では古代の地層から道状遺構が発見されています。特徴は幅0.3mの硬化面が複数並ぶものですが、遺物は出土していません。



▲ 3号道状遺構(近世)



2号道状遺構(中世)